

SKYMENU 活用授業 実践レポート

| | | | |
|------|-------------|-----|-----------|
| お名前 | 正直 一成 | 学校名 | 千葉市立轟町小学校 |
| 実施学年 | 小学校2年生 | 教科 | 国語 |
| 単元名 | なかまのことばとかん字 | | |

《学びを深めたいポイント》

本単元は、これまで獲得してきた言葉にはひとまとまりにできるものがあることや反対の意味をもつ言葉があることなど、言葉についての見方や考え方を広めたり、深めたりできるようになることをねらいとしており、この学習を契機にさらに言葉や漢字についての見方や考え方を広め、深められるようにしたいと考えた。

本学級の児童は、自分の思いや感想もいつも同じ言葉で書くことが多く、語彙もあまり増えていない。そこで、身近な物を表す言葉を身の回りから探し、仲間分けしながらたくさんの言葉に触れさせ、友達と交流することで語彙の量を増やしていきたいという思いから ICT 機器を活用して学びを深めることとした。

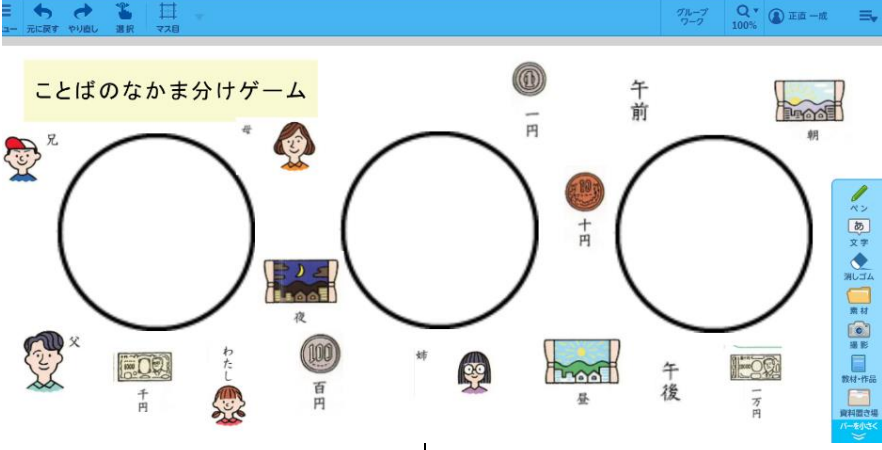


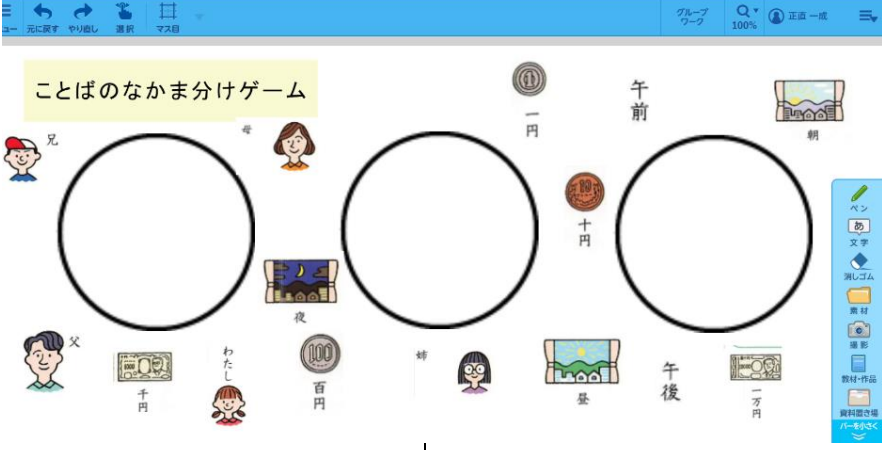
ICT 機器は、場面を捉えて効果的に活用することで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることができる。そこで、本単元では教科書の言葉を仲間ごとに分ける際にタブレットを用いる。従来のように黒板で仲間分けの学習を行うと、操作的な活動が1～2名しかできないが、一人一台のタブレット端末を使うことで、それぞれが操作し理解が深まると考えた。個別最適な学びを実現させるために ICT 機器を効果的に活用できるようにしたい。

また、教科書の言葉を仲間分けをした後に、自由なテーマでいろいろな言葉を集める活動を行う時間を設定するのだが、それは紙面のワークシートとノートを活用する。小学校2年生でタイピングが難しい児童も多く、言葉を集める活動は紙面で行いたい。児童は、発表ノートで絵と共に言葉集めをした経験から、自分で言葉を集める時も頭の中にイメージをしながら集められるだろう。ICT 機器と紙面のベストミックスを図ることで児童の学びが深めると考えた。

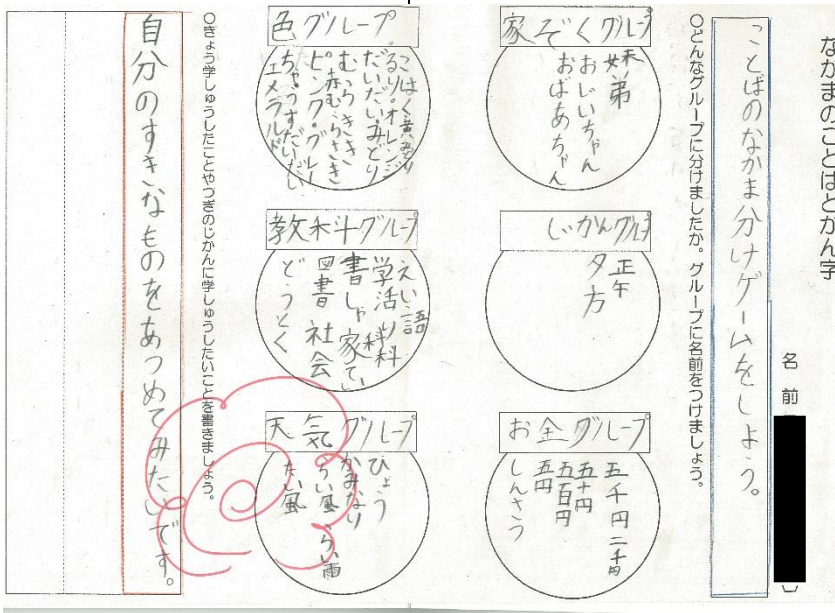
《SKYMENU 活用のポイント》

本単元では、SKYMENU の発表ノートを活用した。教科書の言葉を仲間分けする際に、発表ノートに画像と言葉を載せ、児童がタブレット端末を使って言葉の仲間分けを行った。ICT 機器がない頃の学習の仕方だと、言葉をノートに書いて仲間分けをするというのが一般的であった。しかし、発表ノートを活用することで、画像と共に言葉を仲間分けすることができ、児童も言葉と絵を結び付けて操作するため、意味も把握しやすい。また、全体で考えを共有するときも、従来の方法であれば黒板を使って1名～2名ほどが発表して終わりという流れになってしまうが、発表ノートの全体把握機能を使うことで、教師が即座に大型テレビに児童の発表ノートを映して考えを共有することができる。しかも、必要に応じて大人数の考えをスムーズに紹介することができ、いろいろな考えを出し合ったり、同じ答えでもその理由や経緯をたくさんの児童が発表したりすることができ、協働的な学びが期待できる。

《実践内容》

| | 学習活動 | SKYMENU 活用場面 | 活用のポイント |
|--------|---|---|--|
| 導 入 | <p>1 知っている野菜や魚の名前を発表する。</p> <p>・じゃがいも、たまねぎ、にんじん</p> <p>・サンマ、カツオ、マグロ</p> <p>2 「ことばのなかま分けゲーム」をするということを知り、学習の見通しをもつ。</p> | | |
| 展 開 | <p>3 教科書の言葉を仲間に分ける。</p>  <p>[家の人] 父、母、姉、弟、妹、親</p> <p>[お金] 一万円、千円、百円、十円</p> <p>[一日] 朝、昼、夜、午前、午後</p> <p>[教科] 国語、算数、生活、音楽</p> <p>[色] 赤、青、黄、白、黒</p> <p>[天気] 晴れ、くもり、雨、雪</p> <p>4 いろいろな友達の考えを共有する。</p>   |  | <ul style="list-style-type: none"> ・発表ノートを活用することで、一人ひとりが操作的な活動を行うことができる。 ・低学年でも楽しく学習に取り組めるように、教科書の画像を活用して、シンプルな発表ノートを作成した。 ・従来の学習だと、ノートに言葉を写す方法で仲間分けしたが、絵と言葉をセットで移動できるので、書くことが苦手な児童でも進んで取り組むことができる。 ・教師は発表ノートの全体把握機能を使い、すぐに児童の学習状況を把握できる。 ・画面提示機能を使い、児童の発表ノートをすぐに提示できる。黒板での学習だと、教材を移動したり、元の位置に戻したりするのに時間がかかるが、発表ノートだと児童の切り替えも即座に行うことができる。 |

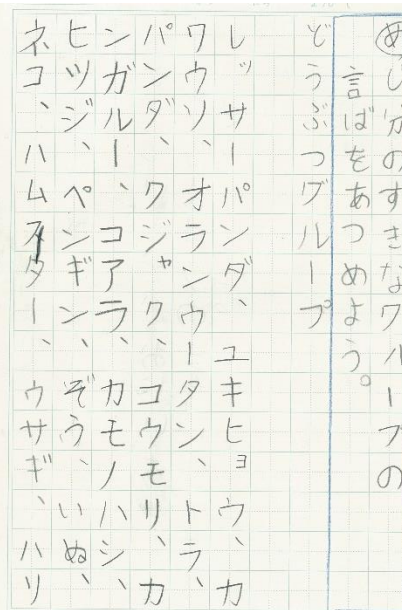
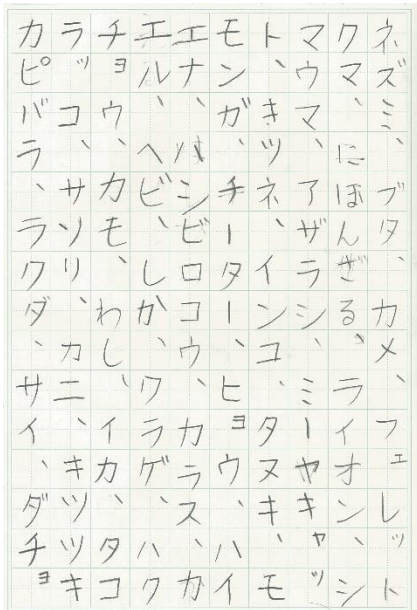
5 教科書の言葉を参考にして、他の言葉を集めて、全体で共有する。



・低学年の児童はタイピングが難しいため、教科書以外の言葉集めは、紙面のワークシートを活用した。自分の手で書いた方が効果的な場面もあるため、ICT 機器をベストミックスして活用する必要がある。

まとめ
6 学習を振り返り、次時の学習について知る。

次時の活動
○好きなテーマでたくさんの言葉を集める。
【児童の活動例】
テーマ:動物グループ



・次時の活動では、自分の好きなテーマで言葉集めを行った。発表ノートを活用して楽しく学習できたため、次時の学習も主体的に取り組んでいた。従来の学習のように、教科書の言葉をただノートに写すだけではここまで意欲的な姿勢は見られなかったように思う。ICT 機器が、児童の主体的な態度を育てるきっかけになったと感じている。

《実践を振り返って》

- 本実践では、発表ノートを活用することで、児童が主体的に活動することができた。文字をノートに書いて仲間分けをするのではなく、教科書の挿絵と共に画面上で操作しながら仲間分けをする活動は、書くことが苦手な低学年の児童も楽しく学習に取り組むことができた。
- 従来のように黒板で仲間分けの学習を行うと、操作的な活動が1~2名しかできないが、一人一台のタブレット端末を使うことで、それぞれが操作することができて理解が深まった。教師も発表ノートの機能を活用することで児童の学習状況が即座に把握できるため、授業の流れもスムーズになり、児童の理解もさらに深まったように感じた。
- 教科書の言葉を仲間分けした後に、自由なテーマでいろいろな言葉を集める活動を行う時間は、紙面のワークシートとノートを活用した。小学校2年生でタイピングが難しい児童も多く、言葉を集める活動は紙面で行った。発表ノートで絵と共に言葉集めをした経験から、自分で言葉を集める時も頭の中にイメージをしながら集められたようで、意欲的にたくさん集めることができた。ICT 機器と紙面のベストミックスを図ることで児童の学びが深められるため、これからも SKYMENU の効果的な活用について考えていきたい。